

## 学習成果の自己評価〔教養教育〕

共通教育の実施は教務部が担当している。教務部では毎年「共通教育科目」カリキュラムの見直しを行い、教授会での審議を経て学長が決定している。科目の内容と履修の意義、選択の方法について、年度はじめの各学科のオリエンテーションで学生に説明している。

「共通教育科目」として 19 科目を置き、卒業に必要な単位数は 8 単位以上とし、必修は「人間と仏教」(2 単位) 「聖和総合教育」(2 単位) で、選択科目 17 科目を置いている。後述の本学における「共通教育科目」の目的・目標に沿った科目配置であると考える。時代に即応し、学生のニーズにも配慮している)。

①「人間と仏教」と「聖和総合教育」を全学生の必修科目としている。

「人間と仏教」は釈尊の教えの根幹である自他を慈しむ「慈悲」の心とお互いを支えあう「和」の精神を養うために、導師の講話とともに毎時間座禅によって自己を見つめる時間を設けている。また、「聖和総合教育」では、「人間と仏教」とともに、建学の精神のもとに自己と他者を共に慈しみ尊重する心を養い、社会に貢献する生き方を学ぶ授業として位置づけている。豊かな人間性を育む生き方について考え、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高めることを目標としており、本学の特色ある科目である。少人数のゼミを基礎としながら、学年全体での取り組みを設けるなど、多彩な内容になっている。

②社会人として的一般教養を養う科目として、「文学入門」「心理学入門」がある。これらは他の人間・文化を理解しコミュニケーション能力を向上させるためのものである。

一方で社会の仕組みを理解するための「暮らしの中の憲法」「経済のしくみ」、身近な科学や環境に興味を持ち、論理的思考方法を学ぶ「暮らしと科学」「環境と自然」を設置している。

③働くことの意味を考え、自分の人生を自分で選択することの重要性について理解を深める「ライフデザイン総合」を設置している。「ボランティア論」「社会福祉概論」は社会貢献を具体的な形で考える科目である。

④国際化に対応するため、アジア、ヨーロッパ等を訪問地として、単なる観光ではなく学科に関連した施設での実習も取り入れた「海外文化研修」を設けている。

語学に関する科目としては基礎的な「英語コミュニケーション」「フランス語入門」「韓国語入門」が置かれている。

「海外文化研修」は、平成 18 年度より開講され、平成 18 年度はフランス（パリ）とタイ（バンコク、プーケット）が実施されたが、平成 19 年度からはタイ、韓国、台湾のアジア各国とフランス（パリ）を交互に実施してきた。平成 26 年度は初めてイタリア（ミラノ、フィレンツェ、ローマ）研修が実施され、平成 27 年度は、台湾での研修を計画したが、規定人数に達せず中止となった。平成 28 年度はオーストラリア研修、平成 29 年度はハワイ研修、平成 30 年度はイタリア研修が実施された。事前の学習と事後の報告書の作成のほか、実地研修が行われた。学生及び保護者からは貴重な体験ができたと好評であった。しかし、令和元年度以後は新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされてきた。コロナ禍が終息した令和 5 年度は再開をめざして計画を進めたが、治安の悪化、実習費高騰などのために最終段階で開講を見送った。令和 6 年度に再開を果たしたい。

⑤心身の健全な育成の観点から、健康に暮らすことを学ぶ「体育理論」「健康スポーツ」を設置している。

⑥情報に関する科目としては「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を設置している。ビジネスや保育実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学ぶ。

本学の「共通教育科目」の目的・目標は、建学の精神に基づく人間教育と、地域社会に貢献できる社会人を育成するため、幅広い教養を身につけ、ものを見る目を養い、物事を主体的、総合的に判断できる柔軟な思考力を培うことにある。さらに、専門教育課程の学習、資格取得、進学の基礎となる学力を向上させることである。「共通教育科目」は「専門教育科目」を学ぶ上での基礎となるだけでなく、互いに関連をもって総合的に本学の目指す人間教育が達成できるよう、カリキュラムを構成している。これらは、『学生生活ガイドブック』及び『シラバス』に記載し、学生に理解を図っている。

<令和5年度「共通教育科目」履修者数及び単位取得率>

共通教育科目	キャリア開発総合学科				保育学科				履修者数合計	
	1年		2年		1年		2年			
	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)		
聖和総合教育（必修）	158	98	1	100	86	100			245	
人間と仏教（必修）	160	100	2	100	86	97			246	
文学入門	31	97	3	100					34	
心理学入門	68	94	6	33					72	
ボランティア論	19	84							19	
社会福祉概論	15	94	2	100					17	
暮らしの中の憲法			3	0			81	96	99	
経済のしくみ			32	94					32	
ライフデザイン総合	35	91							35	
暮らしと科学			4	75					4	
環境と自然			25	72					25	
英語コミュニケーション	17	88	1	100	87	99			104	
フランス語入門	17	88							18	
韓国語入門	43	93			2	100			45	
体育理論	1	100	7	86			84	100	92	
健康スポーツ	13	100	7	86			82	96	102	
情報処理演習Ⅰ	118	97	1	100	87	99			205	
情報処理演習Ⅱ	114	96	1	100	86	97			201	
海外文化研修(開講せず)										

教養教育の効果を測定・評価するため、平成 30 年度から「教養教育 学習成果の自己評価」を導入し、毎年年度末に実施している。令和 5 年度も継続して年度末に行った。これは本学の共通教育科目に関する能力・適性の変化について、1 年次学生には入学時と年度末時点、また、2 年次学生には卒業時点について、1 の「大いにそう思う」から 4 の「そう思わない」までの 4 段階で回答してもらうものである。

### 令和 5 年度「教養教育 学習成果の自己評価」の結果

#### ＜学科別回収率＞

令和 6 年 1 月

学 科	学 年	在籍数(人)	回答者(人)	回収率(%)
キャリア開発総合学科	1	196	167	85
	2	184	163	89
	合計	380	330	87
保 育 学 科	1	88	83	94
	2	86	78	91
	合計	174	161	93
全 体		554	491	89

令和 4 年 1 月

学 科	学 年	在籍数(人)	回答者(人)	回収率(%)
キャリア開発総合学科	1	159	134	84
保 育 学 科	1	87	79	91
全 体		246	213	87

【評価段階】 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

項目	評 価 段 階	令和 5 年度 1 年生 (入学時の能力・適性)				令和 5 年度 1 年生 (後期終了時の能力・適性)			
		キャリア		保育		キャリア		保育	
		人	%	人	%	人	%	人	%
①自他を大切にして、周囲と協働することができる。	1	34	25	21	27	38	28	23	29
	2	75	56	51	65	74	55	50	63
	3	13	10	6	8	11	8	4	5
	4	12	9	1	1	11	8	2	3
②自分の適性・能力を高めようと普段から努力を続けている。	1	27	20	15	19	33	25	15	19
	2	79	59	50	63	78	58	53	67
	3	17	13	13	16	13	10	9	11
	4	11	8	1	1	10	7	2	3
③ものごとに主体的に取り組むことができる。	1	29	22	14	18	34	25	13	16
	2	70	52	52	66	72	54	55	70
	3	23	17	12	15	16	12	9	11
	4	12	9	1	1	12	9	2	3
④社会で役立つ幅広い知識・教養をもっている。	1	21	16	15	19	25	19	12	15
	2	73	54	46	58	79	59	54	68
	3	29	22	17	22	20	15	11	14

	4	11	8	1	1	10	7	2	3
⑤社会で活用できるコミュニケーション能力をもっている。	1	20	15	16	20	28	21	17	22
	2	69	51	47	59	72	54	52	66
	3	33	25	15	19	22	16	8	10
	4	12	9	1	1	12	9	2	3

【評価段階】 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

項目	評価段階	令和4年度1年生 (入学時の能力・適性)				令和5年度2年生 (後期終了時の能力・適性)			
		キャリア		保育		キャリア		保育	
		人	%	人	%	人	%	人	%
①自他を大切にして、周囲と協働することができる。	1	40	24	17	20	46	28	17	22
	2	108	65	53	64	96	59	45	58
	3	15	10	8	10	9	6	7	9
	4	4	9	5	6	12	7	9	12
②自分の適性・能力を高めようと普段から努力を続けている。	1	30	18	15	18	37	23	10	13
	2	99	60	46	55	93	57	43	55
	3	33	20	17	22	19	12	19	24
	4	5	3	5	6	14	9	6	8
③ものごとに主体的に取り組むことができる。	1	33	20	15	18	43	26	11	14
	2	98	59	43	52	89	55	44	56
	3	31	19	19	23	20	12	16	21
	4	5	3	6	7	11	7	7	9
④社会で役立つ幅広い知識・教養をもっている。	1	21	13	11	13	30	18	8	10
	2	97	58	42	50	97	60	39	50
	3	43	26	26	31	23	14	23	29
	4	6	4	4	5	13	8	8	10
⑤社会で活用できるコミュニケーション能力をもっている。	1	20	12	16	19	34	21	10	13
	2	89	53	42	50	94	58	46	59
	3	49	29	23	28	24	15	16	21
	4	9	6	2	2	11	7	6	8

令和5年度「教養教育 学習成果の自己評価」の結果は例年と異なる結果となった。これまでこのアンケート結果により確実に本学の教養教育の成果が確認されてきたが、令和5年度については質問項目⑤を除き、必ずしも期待される数値データが確認できなかつた。そして、その傾向は保育学科において顕著であった。

質問項目①は、主に建学の精神を学ぶ「聖和総合教育」と「人間と仏教」に係る質問である。入学時点と卒業時点で「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科は入学時に 148 名 (89%) で、卒業時に 142 名 (87%) であった。保育学科は入学時に 70 名 (84%) で、卒業時に 62 名 (80%) であった。両学科で微減の結果となつた

点に注目しておきたい。なお8割を超える卒業生が自他を大切にする志向をもっているが、本学の教育でそれがさらに深められなければならない。

質問項目②は学び続ける姿勢、質問項目③はものごとに取り組む積極的な姿勢を問うもので、学生たちが地域で活躍していく原動力となる能力・適性である。質問項目②で入学時点と卒業時点で「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合は129名(78%)から130名(80%)へと微増し、1については7名、5%増であったものの、保育学科は61名(73%)から53名(68%)に減じていることが確認された。

質問項目③では、入学時点と卒業時点で「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科は131名(79%)から132名(81%)へと微増し、1については10人、6%増加で26%となった。保育学科は58名(70%)から55名(70%)で、割合に変化が確認できなかった。

質問項目④は、共通教育科目で幅広い教養を身につけられたか評価するものであるが、入学時点と卒業時点で「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科は118名(71%)から127名(78%)へ推移し7%の改善、1については9名5%増であった。保育学科生は53名(63%)から47名(60%)と微減であった。

質問項目⑤は、協働のために不可欠な円滑なコミュニケーション能力を問うものであるが、両学科で成果が確認できた。入学時点と卒業時点で「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合は109名(65%)から128名(79%)へと推移し、1については14名、5%増であった。保育学科でも58名(69%)から56名(72%)へと変化し、成果を確認できた。

このように令和5年度については、質問項目⑤を除き、必ずしも期待される数値データが確認できなかった。令和6年度も引き続き注目し、本学の教養教育が適切に機能しているか把握していく。